

令和5年

第3回新温泉町教育委員会会議議事録

(令和5年3月29日開催)

新温泉町教育委員会

令和5年第3回新温泉町教育委員会会議録

- 1 日 時 令和5年3月29日（水）午前9時45分～午後0時08分
- 2 場 所 浜坂多目的集会施設 会議室
- 3 出席者 西村教育長
(委 員) 宮口教育長職務代理者 山本教育委員 阪本教育委員 村尾教育委員
(事務局) 中島こども教育課長 谷淵生涯教育課長、樹岡こども教育課参事
吉田こども教育課長補佐兼教育総務係長
- 4 会議録署名委員 宮口教育長職務代理者 阪本教育委員
- 5 傍聴者 0人
- 6 議 事
日程第1 会期の決定
日程第2 会議録署名委員の指名
日程第3 前回会議録の承認
日程第4 教育長報告及び所管事務報告
日程第5 報告第2号 区域外就学の協議に関する専決処分について
日程第6 次回新温泉町教育委員会日程について

開会 午前9時45分

○西村教育長 只今より令和5年第3回新温泉町教育委員会を始めさせていただきます。
本日は、教育委員全員が出席されておりますので会議は成立しております。
改めまして、おはようございます。桜が入学式にもつだらうかというぐらい満開になってきまして、春を感じる日々となっております。先週は全ての小・中学校での終業式を終えることができました。また、卒業式、卒園式では、教育委員の皆様にも大変お世話になりました。ありがとうございました。春休みは新年度への準備が非常に大切な時期になります。今、各学校で準備をしっかりとやっているところでございます。教育委員会事務局としても、新年度に向けての準備を今進めながら、いいスタートが切れるように学校へサポートしたいと思って進めております。本日、委員会終了後に、4月12日にオープンします文化財センター味原川文化伝承館の内覧をしていただきたいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、教育委員の皆様から、新年度に向けてのいろいろなご意見をいただきながら、よりよい新温泉町の教育につなげていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、日程第1の会期の決定についてです。本日の正午までの1日間としたいと思っておりますが、ご異議ございませんか。（「はい」の返事有り）異議なしということで進めさせていただきます。次に日程第2の会議録署名委員の指名ですが、宮口教育長職務代理者と阪本委員にお願いいたします。次に日程第3の前回会議録の承認について、山本委員にお願いします。

○山本委員 多くの議案がありましたが、正確かつ簡潔に整理され記載されていたことを報告します。

○西村教育長 ありがとうございます。それでは、日程第4 教育長報告及び所管事務報告に進めさせていただきます。先ず私のほうから教育長報告をさせていただきます。（別紙「教育長報告」及び議事日程資料1ページを説明）

急な来客ができました。申し訳ありませんがここで10分間の休憩とさせていただきます。

***** 休憩 午前10時00分 *****

***** 再開 午前10時10分 *****

○西村教育長 再開します。次に、令和5年度新温泉町教育構想について私から説明させていただきます。（別冊資料を説明）

○西村教育長 以上で説明を終わります。ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。山本委員。

○山本委員 この新温泉町の教育構想というのは誰に対して配られるんですかね。別紙の教育の重点項目という1枚物もありますけど、これらはだれに配布されるものですか。

○西村教育長 学校関係者です。

○山本委員 いいですか、じゃあ。

○西村教育長 はい、山本委員、お願いします。

○山本委員 中身的なことではないんですが、配られた人がより読みやすいというか、

また整合性があるというか、そういうものを目指していただきたいと思っているんです。例えば教育構想の4ページに体系表があって、そして6ページの教育の重点に入ったときに、創造、自立、協働というのがずっと書いてあるんですけども、その前に、「つなぐ・つながる教育」という言葉が出てきて、そういうのが例えば4ページの創造、自立、協働の四角囲みの中には入っていないとか、「つなぐ・つながる教育」という文言が6ページにこれだけ大きく出てくるんだったら、4ページの真ん中の四角囲みの中にもそういう言葉が出てきたらいいなと思ったり、あるいは、5ページの体系図の中で、創造、自立、協働という教育の重点を受けて基本方針が述べられているんですけど、この枝上の中に創造とか自立とか協働というような言葉が入っていない。その辺をもう少し整理されたらどうかなということをおもいました。あと、8ページのコミュニティ・スクール項を起こして一体的推進と言われていることはよく分かるんですけど、何か唐突に出てきているなという感じがしたんです。5ページの体系図には何も表れていないんだけど、8ページには1つ大きな項がある。

それから気になったのは、具体的な取組が黒丸で上がっているんですが、これを全部やっていくのはなかなか大変だなと思いつつ、でも、教職員は意識してされているんだろうと思うんですが、今説明された中に教育長さんが言われた項目がありますよね。そういった項目が1枚物の重点項目にも記載されている。この黒丸がいっぱいあるんだけど、今年度の重点項目というものが分かるような表記にしたらいんじゃないかなと思います。

それから、具体的な取組の文末が統一されていないと思います。体言止めになっていたり、文章になっていたり。あと、9ページ以降に、項目ごとに総論が書いてあるんですが、文章量にすごく差があるなということをおもいました。特に19ページの乳幼児期教育・保育の充実というところは物すごい量が書いてありますが、他の項目であれば、アとかイとか項目をつくって書いてあるのに、ここだけが長い文章で書いてあるんで、その辺を整理されていたら非常に読みやすくなったり、重点がよく分かって、1枚物のこの教育の重点項目とつながってくるかなとか、そんなことを昨日見せていただきながらおもいましたので、可能な範囲でまた次年度に向けて検討してみてください。

○西村教育長 ありがとうございます。樹岡参事。

○樹岡参事 貴重なご意見、ありがとうございます。昨年度も山本委員からは、今

年度打ち出す教育の方向性について、住民の方々が分かりやすくなるような工夫をということでアドバイスをいただいております。例えば、新年度、実施するに当たりまして、4ページのこの体系表を記載させていただいたのは、山本委員からのアドバイスで、やはり図で分かるようなものがあつたほうが良いということで付け加えさせていただいております。こちらにつきまして、先ほどアドバイスの中では、「つなぐ・つながる教育」というキーワードを入れたほうが良いということでご意見をいただきました。または、今年度の重点項目がより分かりやすくなるようにということで、例えば、兵庫県教育委員会が示す指導の重点には今年度取り組むところにはばタンマークを入れる工夫もされています。そういうふうな工夫はできるのではないかとということで、今聞かせていただきながら思いました。ただ、4ページ、5ページを見ますと、この大きな方向性に沿っているというのは間違いないんですけども、やはりこれの事業を実施していくと、今、新温泉町に具体的に必要なキーワードというのが見えてきます。それは教育長が示された主体性であったり、非認知能力、それから話し合い活動ということになりますので、この辺りのキーワードが一般の方々にも、この大きな計画の中のどこに位置づけられるのか、そういうのが分かりやすくなるように工夫をさせていただきたいと思っております。

- 西村教育長 本当にありがとうございます。聞かせていただきながら、そうだなと思いつつ、何か改善できるところをしっかりと改善しながら読み手が理解しやすいようにと思っておりますので、今後しっかりと修正を加えていきたいと思っております。
- 山本委員 もう一ついいですか。つなぐ、つながるということが今年度の重点にされているように思いますし、この1枚物にも最初に教育をつなぐとあって、①、②、③というのがあって、②だけが教育をつなぐという文末になっているんですが、①、③も最後の語尾をつなぐとかつながるとかという文末にされたら、つなぐということがキーワードになってくるんじゃないでしょうか。
- 西村教育長 ありがとうございます。修正を加えて、しっかりと実行できるようにしていきたいと思っておりますので、方向性をしっかりと示していきたいと思っております。ほかの委員の皆様、どうでしょうか。
- 山本委員 例えば高校生が町内のこども園を視察して、非常に先生方が忙しそうだから、高校生でもできることを提案されたというようなニュースを読んだことがあって、なるほど、これはすばらしいことだなと思って。地元の高校の存在価値というか、存在意義というか、そういうことを重点にされたらいいのかなと思っていま

す。そういうことを重点にして、小中高生の活動が町にいろんな形で反映されていくような、そんな実践をこの1年間、また進めてください。

○村尾委員 一つ質問、よろしいでしょうか。

○西村教育長 村尾委員。

○村尾委員 浜高ラボに私は行けなかったんですけど、教育長さんは出席されましたか。

○西村教育長 はい、しました。

○村尾委員 その中で浜高生のいろんな取組が発表されたと思うんですけど、地域の中に入っていくとか、気づいたこととか、そういう発言や発表があったと思うんで、そういうようなものもこの中に入れ込むようなことは難しいのでしょうか。

○西村教育長 山本委員のお話を聞きながら、浜高ラボでもそういう発表があったなと思いました。今、村尾委員おっしゃっていただいたように、すごく探求しているんです。地域の中にどんどん入って行って。自分たちにできること、地域に対して何ができるのかということを探求しているというのがすごく感じられまして、とてもいい発表でした。これはあの場で終わるのがもったいないと思ったので、その講評の場でも言わせてもらったんですけど、中学生にあれを聞いてもらう場とか、地域の人に聞いてもらう場とか、そういうことをこっちが仕組んでいく必要はあるなと思いました。そういった意味での地域貢献ということを入れさせてもらっているんですけど、ざっくりした言い方なので、それを組み込むことを考えていきたいと思いますし、高校からの中学校に対して高校説明会があるんですけども、高校生が発表する内容を中学生に見せていくということが非常に大事ななど、浜高の校長先生とも話をしていました。

実は昨日、専門職大学を訪問しまして、浜高から入学して今度2年生になる学生が1人いるんですが、その学生と話をする機会がありまして、話をしていますと表情を見ただけで本当に生き生きときらきらしているんです。そして、大学でもいろんな地域に出て、地域の企業を回って、ミッションを与えられて、いろんな取組をしているようです。地域との交流をしっかりと、地域に貢献できるような取り組みを大学でもしている。その話の中で、彼女はJRに行ったようなんですけども、これだけ住民のことを考えて、これだけのサービスしているのかということに気がついた。体の不自由な方だとか高齢の方だとか、いろんな支援が要るというようなことを踏まえながら企業努力をされていることを感じながら、自分たちが若者としての提案

をしてきたという話を実際に聞いて、小学校や中学校でいろんなことをやってきたことが今大学でさらに生きてきているんだなということを感じることができたので、本当に地域の皆さんと触れ合いながら、地域貢献と、地域の中に出ていくということが大事だということを感じました。浜高ラボのことは大事にしたいなと思います。

ほかどうでしょうか。よろしいでしょうか。では次に、行かせていただきます。所管事務報告について、こども教育課からお願いします。

○中島課長 （議事日程資料1～7ページを説明）

○西村教育長 こども教育課の所管事務報告について説明が終わりました。ご質問等ございましたらお願いいたします。阪本委員、お願いします。

○阪本委員 不登校の人数なんですけど、中学校3年生が卒業されて少なくなるんだろうなと思うんですけども、やっぱり中学校の子ども心と体、すごい成長過程の中で、そういうことを未然に防ぐにはどんな対応をしたらいいのかなということもいつも思っていて、前に名古屋の中学校で常勤のスクールカウンセラーをされていて、毎朝登校時に生徒を迎えて顔色を見るとか、毎日見ていることによって気づける、休憩時間に見て回ったり、授業中にも見て回ったりすることで、相談に行くことができない子どもさんの変化に気づいてあげられる。そういう心のケアの専門家の方が一番寄り添いやすいというのがあるんじゃないかなというのがあって、どうしても先生は忙しいので、自分のちょっとしたことに構ってもらうのも悪いような気がしたりするということを知ったり、相性もあったりするし、先生は心のケアの専門家じゃないので、どうしても寄り添い方がうまくはいかないことも多いと思うんですよね。そういう意味で、専門家の方にもっと日常の子どもの様子を見てもらえるような体制ができないかなと思っています。中学生ぐらいになったら、親に心配かけたらいけないと思って言わないんですよね。そうした相談に行けない子どもさんのことを考えて、もっと気づいてあげられる体制というの、この人はいつも気にしてくれているとか、そう思えるから、この人にだけは言えるというふうな信頼関係が持ちやすい存在というのが常にあるという環境があればと思っています。

○西村教育長 ありがとうございます。樹岡参事。

○樹岡参事 ただいま阪本委員からスクールカウンセラーについて提案をいただきました。我々としても不登校の子どもたちの心のケアというのは重要性を感じていますし、例えばできることとしましては、教育長も常々、学校現場への人的支援とい

うのを県教委に要望されていまして、今年度は不登校の加配を夢が丘中学校につけていただきましたし、来年度もつく予定です。その教員はそれ専門に動きますので、先ほど阪本委員からお話がありましたように、子どもたちの顔色を見たりとか、休憩時間なんかには学校を回る、それから細かな変化に気づくということ意識しながら職務をしていただいております。あと、スクールカウンセラーの勤務につきましては、やはり予算に関係することもありますので、引き続いて県や国へ要望を出していきたいと思っております。あと、最後に、但馬教育事務所にスクールカウンセラーが多く配置されることになりまして、教育事務所からもぜひ活用を図ってほしいということもありましたので、連携を引き続き図ってきたいと思っております。

○阪本委員 あと、その授業中も見回ってもらいたいなというのはあるんですね。授業中でも知らずにいろんな発言で傷ついたりということがあったり、先生の思いがちゃんと伝わらないことがあって1人で落ち込んだりするような子どもさんもいると思うので、いつでも見回っている、そういう体制があったらいいなと思います。

○西村教育長 ありがとうございます。

○村尾委員 よろしいでしょうか。

○西村教育長 村尾委員。

○村尾委員 今、樹岡参事が言われたんですけど、但馬教育事務所には今までスクールカウンセラーは1人だったと思うんですけど、人数が増えたんですか。今までだったら学校に月一回ぐらい派遣されていたと思うんですけど、どういう体制になったんでしょうか。もし回数が少ないようであれば、阪本委員さんが言われたように、ずっと回って様子を見ていくというのはとっても大事なことだと思うんですね。先生方がちょっとでも気づいたときに、ちょっとよく見てくださいねというのがカウンセラーさんに伝わって、例えば授業中でも後ろのほうから見てもらったりして、それから、登下校についていけないようなことがあるんですね。で、親が送っていたりとか、そういうちょっと変わった雰囲気があったときに、気づいて子どもたちに話を聞いたりとか、その子に対して目を配っていくとか、それから先生方にもいろいろと聞いていくとか、そういうことに関しても外部の専門家が入る意味があるかなと思うんですけど、そこら辺の対策はどうなんでしょうか。

○西村教育長 樹岡参事。

○樹岡参事 まず、本町のスクールカウンセラーの体制についてのご質問にお答えし

ますと、現在3名のスクールカウンセラーが新温泉町には入っていただいています。拠点になる学校はあるんですけども、その方々が全ての小・中学校に行っていていただいております。もう1点、先ほど申し上げました但馬教育事務所のスクールカウンセラーというのは、但馬教育事務所に単独でついているスクールカウンセラーがおられまして、その方はかなり経験豊かな方でありますので、そういう方も派遣しますよという話をいただいております。そういう方にも入っていただくと、より体制は強化できるかなということです。

あと、不登校に対する対応なんですけども、今おっしゃっていただきましたように、本当に精神的な取組は数多くあり、いろんな人をつけられたらいいんですけども、それは予算に関係することもあります。例えばなんですけども、教育長が提案しているのは、現在、放課後に子どもたちを教える事業があるんですけども、その事業を膨らませて適応指導教室にも入れるというような事業が今年度から始まりました。そこに人をつけたり、そういう工夫はさせていただいております。

あと、適応指導教室に関しましては、現在、中学校から離れたところに位置しているんですけども、中学校の中に設置できると、その子どもたちが学校に向かいたくなったときにハードルが低くなるのではないかと、そういう要望を教育長から国や県に示していただいております。

- 西村教育長 不登校が当町でも増えてきておりまして、大きな課題だと思っています。気づきということを阪本委員や村尾委員がおっしゃいましたが、本当に大事なことで、日々、担任の先生がどこで気づくか。それから登校してくる子どもたちの表情を校長先生が毎朝見ておられますので、そういったところの気づき、本当にいろんな気づきが必要だと思っています。カウンセラーの配置は本当にもっともっと必要だと思っていますし、これが全校に配置できるような、そんな体制になったらよりいいなと思っていますし、小学校で本当に年齢が小さいときからスクールカウンセラーの配置がもっとできればいいなと思っていますが、なかなかそこには至っておりませんので、本当に先生方の気づき力というのは大事だと思います。スクールカウンセラーについては、授業を見回ったり、その中でいろいろスクリーニングしながら、気になる子どもについては担任の先生に、ちょっとこんなことが気になったんだけどというようなことは日常的にしてもらってはいますけども、勤務日数が少ないもんですから、そこは課題だと思っています。教育長として県に要望する場面もありますので、そういったところでしっかり言っていきたいと思います。山

本委員。

○山本委員 本当に不登校が増えているなということをもまず思いました。本当に喫緊の課題だと思っていて、特に浜坂中学校では12人ということで、非常に多いなど。これが2月までですから、3月になったらまた増える可能性もある。先ほどの話の中で、夢が丘中には加配がついているということですがけれども、いろんな教員の配置の問題もあるんでしょうけれども、浜坂中学校がこれだけ人数が増えているということは、やっぱり何らかの手を打つというか、それも視野に入れて人事も考える必要があるんじゃないかなと今聞きながら思いました。

樹岡参事が言われたように、これだけの人数がいて、町としても適応指導教室をつくって、その子たちを迎え入れる準備もしていただいているにも関わらず、現状の利用は2名ということで、多くの子どもが適応指導教室にも行けていない状況がある、4月からは適応指導教室の場所が変わるとか、いろんな環境の変化も起こってどうなのかなということはあるかもしれませんが、今お聞きした中で、僕もちらっと聞いたのは、なかなか適応指導教室にすつと行けない子どもさんがおられるということで、中学校が校内に適応指導教室をつくるという、もう既に豊岡の南中や北中ではそういったことがあって、中学校を退職されたような先生がそこで指導するというような、そんな事例もあるようですので、当然、豊岡の南中や北中では生徒数も多いですから不登校の人数も多いだろうと思いますけれども、浜坂中学校でもそういった取組を進めていただいて、少しでも子どもたちにとっていい居場所になれる学校になるために、施設面でもですし、人的な面でも、なかなか県の予算はつかないでしょうけど、町単独でもそういったことを考えていただいて、子どもたちに対応してやる、そういうことが今後広がっていけばいいなと思いました。

○西村教育長 ありがとうございます。校内での適応指導教室は本町でも必要だということはずごく思っていますし、そういった話も実際に出ていますし、それができれば、人的配置が非常に難しいところがあるんですけども、まだ先生のほうが、適応指導教室は改善していますけれども、人が来ないときには学校に出向いて行って、そこで子どもと学ぶとか、そういったことも考えていますし、今もしてもらっているところもあるんですけども、そういったこととか、温泉地域にもつくっていきたいという課題もあると思っていますので、本当にしっかりと取り組んでいきたい、誰1人取り残さないといいながらそれができていないなと思っていますので、しっかりと考えていきたいと思えます。樹岡参事。

- 樹岡参事 浜坂中学校の新年度の大きな動きとしまして、教育長が浜坂中学校の現状を県に伝えていただいています、養護教諭が2人体制になります。2人体制で子どもたちをより細かく、きめ細かく見ていきたい、そういう思いがございます。あと、町費での人的配置ではないんですけども、空き教室を利用して子どもたちを受け入れる体制をつくるために、教室の片づけ等、学校と町教委が連携しながら進めさせていただいております。
- 西村教育長 ほかによろしいでしょうか。すみません、予定の時刻を超過しそうです。延長ということでお願いします。（委員全員了解）それでは生涯教育課の所管事務報告をお願いします。
- 谷渕課長 （議事日程資料8～16ページおよび当日配布資料を説明）
- 西村教育長 生涯教育課の所管事務報告について説明が終わりました。ご質問等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。それでは次に、日程第5報告第2号 区域外就学の協議に関する専決処分について 事務局より説明をお願いします。
- 吉田課長補佐 （議事日程資料 17～19ページを説明）
- 西村教育長 説明が終わりました。ご質問等ございましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。では、校区外就学の協議に関する専決処分について 承認いただけますでしょうか。（委員全員「異議なし」）ありがとうございます。それでは次に行かせていただきます。日程第6 その他 次回新温泉町教育委員会日程について事務局よりお願いします。
- 吉田課長補佐 次回は4月24日（月）午前9時45分開始で、会場は後日お知らせするというようお願いしたいと思います。
- 西村教育長 ご予定はいかがでしょうか。（委員全員了解）それでは次回は4月24日（月）午前9時45分開始、会場はあらためて連絡するというようお願いいたします。それでは、閉会ですが挨拶宮口教育長職務代理者をお願いいたします。
- 宮口教育長職務代理者 今日、特に町教育構想については、来年度1年間取り組む上での指針になるものです。本当にこれを読んでいても、今日、説明を聞いていても、本当に現場にしっかりと根づくことができればいいなと思いますけれども、なかなか難しい部分もあるかと思えます。おいおい指導主事、教育委員会等でまた現場に足を運んだり、あるいは研修がうまく進むようお願いしたいと思います。ほかにも、私も気になっていたんですが、不登校の子が年々増えている。4月になる

と卒業した子どもの関係でぎゅっと減ったような数字が出るかと思えますけれども、一人一人状況が違いますので、その辺のところはしっかり手だてを打ちながら、不登校の子どもを出ない対応が本当に必要だということは実感しております。また新学期、4月1日から始まりますけれども、学校とのタイアップを十分しながら取り組んでいけたらなと思えます。今日のご苦労さまでした。ありがとうございました。

閉会 午後0時08分
